

『主よ、今、ご覧になって』(使徒の働き 4章 13-31 節) 2023.7.9.

<はじめに> 神を信じる者には、すべてのことがうまく運ぶなら、こんなに楽なことはありません。しかし、現実には神を信じる者にも悩ましいことが巡って来ることもあり、神を信じるが故の苦しみもあります。そのようなとき、私たちは神に祈ります。何と祈ればよいのでしょうか。

I 実生活の中で起こること

①目覚ましい働き(3章-4:12)

ペテロとヨハネは主イエスの御名によって奇跡を行い、人々にイエスの復活を大胆に証しし、大勢が神をあがめ、イエスを信じました。民の指導者たちの前でも、二人は聖霊に満たされて、イエスこそ救い主(キリスト)であると大胆に証します(5-12)。

②理不尽な命令(13-22)

民の指導者たちは二人を逮捕拘留し、翌日尋問した後、協議して、今後イエスの名によって語ってはならない、と二人に厳命し、脅したうえで釈放しました。主を信頼して、善い業をなし、人々に福音を宣べ伝え、成果を出す者に、なぜこんなことが起こるのでしょうか。

③信仰者の葛藤

神に従い、福音を証しし、精一杯信仰の道をたどる者が、いつでも誰もが納得できる結果と報いを受けられるならどんなに良いのでしょうか。神を信じ歩む者に理不尽が襲い掛かる時、信仰者の心は穏やかではられません。そんなとき、私たちはどうするのでしょうか。

II 神に持って行く

①仲間と分かち合う(23)

二人には同信の仲間がいて、一連の出来事も言い渡されたことばも、残らず伝えました。驚き・感謝・恐れ・痛みなど心のすべてを、ことばにする作業は大変ですが大切です。また、思いをありのままに打ち明けられる友、親身に聞いてくれる友が私たちに必要です。

②心合わせ祈る(24)

打ち明け話を聞くうちに、自分では力不足を感じる場合があります。そんな時こそ、ともに聞いておられる神に目を上げて、心合わせて祈るのです。神は、ご自身に期待して、心を開いて祈ることを待っておられます。マタイ 18:19 で主も約束されます。

③主よ、ご覧ください(29)

見て、聞いて、知って、御手の中にこれらすべてを握り、主が主導権を持って関わってくださるように、と祈ります。私にとって難しいとか無理だとか言って思い悩むうちは、まだ自分で問題を握っているからです。さっさと手放して、主の御手に託するのが最善です。

III 神の視点で見る

①神とこの世(24-28)

神なる主は天地万物の創造者・支配者です(24)。しかし、詩篇 2 篇にあるように(25-26)、人はおごり高ぶり、主に立ち向かおうと企み動くものです。イエスの十字架もその成就です(27-28)。人の反抗も神の御手の中であって、御意は崩れることなく着実に実現します。

②神の計画の推進(29-30)

人に従うより、神に従うことを宣言した彼らは、神の御前で改めてしもべとなる決意を表します。しもべの務めは、みことばを大胆に語ることに、みことばに伴うしるしを行うことです(マルコ 16:20)。イエスがよみがえり、罪の赦しを与える救い主だと証しするためです。

③神の応答(31)

彼らが祈り終わると、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出します。彼らの祈りを聞き届けて神が働かれるのを、彼らはこれからも実感していきます。取り囲む状況は変わっていませんが、神への信頼は増し、事々に祈り、主を身近に感じて歩みます。

<おわりに> 私たちの現実生活には、悩ましい理不尽な課題が山積していても、それらはすべて主なる神の御支配の中にあります。その主にすべてを打ち明け、持ち行く仲間・友として、私たち教会は結び合わされています。祈るところに神は臨み、祈る者を引き上げられます(H.M.)